



燃ゆる感動 かごしま国体

特別国民体育大会

熱い鼓動 風は南から

2023

南九州市炬火リレー

7月24日、燃ゆる感動かごしま国体・かごしま大会南九州市炬火リレーが開催されました。
顕娃・知覧・川辺地域ごとに5区間のコースが設定され、210人のランナーが笑顔で炬火をつなぎました。

顕娃小学校5年生の横井遥乃さんは、「地元で国体が行われるので、盛り上げたいと思っていた。炬火リレーに参加できて、よかったです」と話しました。

沿道からたくさんさんの声援が送られたことから、川辺小学校6年生の窪優心さんは、「とても楽しかった。たくさん応援に来てくれてうれしかった」と話しました。各地域のゴールでは勇壮な太鼓の音でランナーを迎えました。

【炬火リレーとは】

「炬火リレー」は、かごしま国体・かごしま大会両大会開催の雰囲気盛り上げて、記憶に残る大会とするため、多くの県民、特に子どもたちの参加のもと、県と各市町村が共催で実施するものです。

採火された炬火は、薩摩・大隅・離島の3コースで全市町村を巡ります。各コースを巡った3つの炬火は一つに集火され、総合開会式時に白波スタジアムの炬火台に灯されます。



94歳の走者、鶴田イツ子さん
炬火リレーに参加して「最高の気分でした。みなさんに感謝です」と話しました。



5年ぶりに開催 第25回 知覧ねぶた祭



7月29日、知覧ねぶた祭が開催されました。5年ぶりにねぶたがまちを練り歩くとあって、沿道は見物客であふれました。

友好交流都市の青森県平川市からも応援隊が駆けつけ、祭りを盛り上げました。

知覧小学校と薩南工業高校のねぶたも披露され、児童、生徒らも楽しそうに氣勢をあげました。

それぞれのねぶたには、笛や太鼓のお囃子隊がつき、「やーやどおー」のかけ声と、奏でられるお囃子、勇壮な武者絵に、見物客も圧倒されているようでした。



平川市

南九州市

北と南の交流の懸け橋

南九州市と平川市の中学生がホームステイで交流

7月22日から7月25日の4日間、青森県平川市の中学生7人が本市を訪れました。平成2年から始まったこの事業は相互の家庭でのホームステイをとおして、異なる生活習慣や文化を体験し友情を築き、絆を深めることを目的としています。

ホームステイ先では、乗用型茶摘み機械試乗やブルーベリー狩り、海水浴などを体験し、全体活動では伝統工芸の蒔絵体験や四角場浜海岸で海遊びを体験しました。初日は緊張した面持ちだった派遣生も、最終日には楽しかった思い出を振り返り、別れが名残惜しい雰囲気、再会を誓い合っていました。12月には、本市の中学生7人が平川市を訪問します。



思い

南九州市青少年国内派遣事業実行委員会

副委員長 平木場 幸

この事業は、平川市（当時南津軽郡平賀町）が、子どもたちに北と南の風土の違いや、それらに伴う物のとらえ方の違いなどを感じさせることで、より多角的な考察のできる地域や町づくりのリーダーへ育てようという趣旨で始めたものです。趣旨に共感した南九州市（当時川辺郡知覧町）の子ども会育成連絡協議会が中心となり、教育委員会と協力し、平成2年に平賀町から中学生・高校生の子どもたちを受け入れました。その後、双方の子ども会育成連絡協議会と教育委員会が協議し、ホームステイ型の相互派遣事業として取り組むこととなり、南九州市からの派遣は平成3年から始まり現在に至っています。

また、この交流事業に参加した平川市の派遣生の熱き思いがきっかけとなり、知覧ねぶた祭が開催されるようになりました。これは、交流事業がさまざまな方々との関わりを生み、関係者の皆さんが損得なしに取り組んだ情熱と努力が、実を結んだものです。まさに交流事業の賜物である知覧ねぶた祭が、新型コロナウイルス禍の影響を乗り越え、この度25回目の開催となったことも感慨深く思っております。

思い起こせば、交流が始まる前年の平

成元年、当時の知覧町長でありました故塗木早美氏が、千葉県幕張メッセでありました第二回生涯学習フェスティバルにおいて、「シンポジウムの登壇者として」「町づくりは人づくり」というテーマで発表したことや、平賀町自治公民館連絡協議会の地域づくり対策事業のリーダーを派遣する事業により数人のリーダーの訪問をいただいたことなどから、青森と鹿児島町の町同士の交流の必然性を勝手ながら感じ、これらのことがきっかけで、青少年派遣事業に発展したものと感じております。

このようなことから、短い期間ではありますが、ホームステイや気候や文化の違い地域での体験をとおして、派遣生のそれぞれが感じたものがあり、その体験が彼らの将来にどう反映するかも楽しみなどところではありますが、それが社会性の醸成へと繋がっていくものと信じております。今後もこの事業を続けて、子どもたちだけでなく大人も共に成長し、心の能力を高めて少しでも「町づくり」に寄与できればと思います。

今後は、この交流を通じて文化活動面での交流も果たしていければ、さらに相互の地域の理解と郷土愛の涵養へつながっていくのではないかと思います。



～国選択無形民俗文化財～

豊玉姫神社の「水車からくり」 水の力で動くかぐや姫に魅了



豊玉姫神社の六月灯が7月9日、10日に催され、恒例の「水車からくり」も公開上演されました。

今年の演目は「かぐや姫」。平成22年にも公開された演目ですが、水車からくり保存会の宮原知見さんによると「竹から現れるかぐや姫とおじいさん、おばあさんの動きのタイミングを合わせたり、かぐや姫が月にのぼる表現に工夫を凝らした」とのことです、さらに見ごたえのある竹取物語の世界が作り上げられました。

水車の動力を精巧に仕組まれた歯車の一つひとつに伝え、複数の人形がキャラクターに応じた動きをする演出は、多くの観客を魅了しました。

～コロナ禍を乗り越えて通常開催～

4年ぶりの賑わい 川辺祇園祭



7月23日、「川辺祇園祭」が開催されました。この祇園祭は、大正14年に始まったとされる歴史ある伝統行事ですが、コロナ禍のために中止や規模縮小を余儀なくされ、満を持して4年ぶりの通常開催となりました。

商店街では、御所車や山車、神輿、踊り連などが練り歩き、賑わいを見せていました。参加者からも「今年は、通常通り開催できてよかった」「いつもの活気が戻って嬉しい」との声が多く聞かれました。

また、夜の花火大会でもたくさんのお客が、音楽に合わせたミュージック花火などを楽しみました。



颯娃高校生徒が 風鈴の絵付け



「ふうりんの小径」に合わせ、颯娃高等学校の生徒が風鈴の絵付けを行いました。



アート部を中心とした生徒たちは、ひまわりや朝顔などの絵を丁寧に描いていました。生徒の一人は「絵は苦手ですが、色を重ねたりニスを塗ったりして作品になっていく過程が楽しかったです」と満足した様子でした。生徒たちが絵付けした風鈴は、8月31日まで釜蓋神社や大野岳公園に展示されています。



「ふうりんの小径」オープニングセレモニー

夏の風物詩

一般社団法人南九州市観光協会が主催するイベント「第4回南九州市ふうりんの小径」のオープニングセレモニーが、7月22日、知覧武家屋敷庭園群の藤棚公園で開催され、大心寺二葉保育園の園児や、薩南工業高校生らが、風鈴の取り付けを行いました。

風鈴の短冊に「友達がたくさんできますように」と書いた大心寺二葉保育園の馬場咲花さんは「風鈴はともきれいな音で、飾りつけも楽しかったです」と笑顔で話しました。

風鈴は、お茶むらい風鈴、川辺焼、彫金風鈴などさまざまな、同公園のほか、麓公園、大野岳公園、釜蓋神社、飯倉神社、サクラノヤカタおよび市内の商店街などに8月31日まで飾られています。

～選挙管理委員会～

選挙啓発活動の実施

市内の学校で本番さながらに投票を行うなど、選挙啓発活動を行いました。

川辺高校

6月22日、川辺高等学校で生徒会会長選挙が実施され、体育館内に市選挙管理委員会備品の記載台と投票箱を設置して、実際の選挙で行われる流れで投票を行いました。

投票に先立って、8人の立候補者が演説を行い、全生徒がより良い学校になるよう真剣に考え、選挙に取り組みました。



川辺高校

颯娃小学校

颯娃小学校6年生児童14人を対象に選挙の出前授業を行いました。選挙のクイズを行い、選挙の意義、大切さを学びました。また、実際の投票所と同じように設置された仮投票所で模擬投票を行いました。児童の中には「実際に選挙を体験してみて、意外に簡単だったため18歳になったら選挙に参加したい」という意見もありました。



颯娃小学校



まちの話題

みな、みりよく！
南九州市

～スポーツ少年団研修会交流会～

ニュースポーツで交流を深める



7月8日、スポーツ少年団関係者が一堂に学ぶ、市スポーツ少年団研修会交流会が、ちらん夢郷館と知覧平和運動公園で開催されました。

ちらん夢郷館では、指導者と育成者41人が団活動の課題とその対応などについて研修し、知覧平和運動公園では、団員らがニュースポーツ体験を通じて交流を図りました。

ディスクゴルフ個人の部で優勝したFC顔娃の満永瑛斗くんは「楽しかった。来年もまたやりたい」と話しました。

～市外企業が事業所を開設～

サテライトオフィス進出協定



7月11日、みらい株式会社（本社：広島市）とのサテライトオフィス進出協定締結式が市役所で行われました。

協定は、市と相互に協力して円滑な事業運営や地域振興などを目指すために結ばれたもので、知覧平和公園内のPACBO（パクボ）に事業所を設置し、企業誘致やテレワーク事業などを行う予定です。

出席した大矢元起取締役COOは「地域と一緒にあって、若い世代が安心して子育てできるまちづくりに取り組みたい」と、抱負を語りました。

～88年前の設備、健在！～

高田タービン揚水場の試運転



高田タービン揚水場は、今から88年前の昭和10年に設置されたものです。エコや省エネといった言葉がない時代のもので、水の力だけで機械を動かし永里川（高田川）両岸の用水路へ水を供給します。

現在も湧水に備えて毎年初夏に試運転が行われています。

7月9日、高田区の方々が取水口や建屋周辺の清掃、内部の機械のメンテナンスを行った後、試運転が行われ、無事に稼働することが確認されました。

～新規就農者励ましの会～

新規就農者に大きな期待



新規就農の奨励と担い手農家の仲間意識の高揚などを目的とした「新規就農者励ましの会」が、7月6日に知覧文化会館で開催され、市内で新たに就農した13人が参加しました。会には県南薩地域振興局やJAなどの関係機関も出席し、大きな夢と志をもって就農した参加者を祝福し、激励の言葉を送りました。

お茶農家の後継者として就農した折尾勇樹さんは「これから3年、5年かけて良いお茶を作っていきたい」と抱負を述べました。



～川辺地域田部田地区～

田んぼアートが見頃です



田んぼをキャンバスに見立てて稲で絵を描く田部田の田んぼアートが、見頃を迎えました。7月1日に地域の方々や川辺小学校児童らが植えた稲が順調に成長し、「川辺小学校創立150周年」と「かごしま国体」をテーマにしたデザインが田んぼ一面に現れました。

たべた田んぼアート実行委員会の南田祥作事務局長は「川辺小学校の協力もあり、素敵な図柄が完成しました。これからの時期は稲穂が出てきて一味違うアートを楽しむことができるので、ぜひお越しください」と話しました。

～知覧特攻平和会館～

新しい語り部がデビュー



知覧特攻平和会館で、今年4月に語り部として着任した松山尚子さんが、宮崎から訪れた高校の平和学習で初めて語り部を務め、デビューを果たしました。

松山さんは「生徒たちの眼差しと、特攻隊員の顔が重なり感情がこみ上げました。私たちの住む南九州市は隊員たちが見た景色が今も残っています。多くの若者が飛び立っていった史実を忘れずに、平和と命の尊さを語り継いでいきたいと思います」と抱負を述べました。

～颯娃高校 生徒会美化部～

J R 西颯娃駅周辺を清掃



7月20日、颯娃高校の生徒会美化部12人が西颯娃駅の駅舎や駅前ロータリー周辺の清掃活動を行いました。

JR指宿枕崎線で通学する生徒たちにとって、西颯娃駅はなくてはならない存在であり、生徒たちは日ごろの感謝の気持ちを込めて活動していました。

生徒会美化部長の川田旭晃さんは、「校是である開拓精神をもとに、今までとは違うことに取組んでみた。駅がきれいになって嬉しい」と達成感に満ちた表情で話しました。

～知覧小学校～

水の怖さ学ぶ “着衣水泳講習”



7月18日、知覧小学校で着衣水泳（ういてまて）講習が行われ、全児童が参加しました。

これは、指宿南九州消防組合の有志で作るボランティア団体が、南九州市・指宿市の小学生を対象に行っているもので、今回は着衣の状態で誤って湖や海、川などに転落したときの身の守り方や実際に救助する場合の対処法を学びました。

参加した知覧小学校4年の松元琉輝哉くんは「服を着ているときはとても重い。浮き方を学べてよかった」と話していました。